



こころ

スクールカウンセラー

吉澤克彦

令和3年2月

生きるということ

明石家さんまさんの話です。彼の周りには、いつも笑いが絶えませんね。

ところで、さんまさんのお子さんの名前は知っていますか。

「いまる」です。珍しい名前ですね。ある言葉からの命名です。

さんまさんは、小さい頃お母さんを亡くしています。弟も実家の魚屋の火事で失い、その後、お父さんも亡くなりました。

彼自身も 520 人が亡くなられた墜落事故のジャンボジェットに乗る予定でしたが急に予定が早まり、その前の飛行機に乗り命拾いをしたという出来事がありました。

こういう体験をしてきた彼は、いつしかある言葉を大切にするようになりました。

それは、「生きているだけで丸もうけ」という言葉。

家族の死、そして自分の死が身近に迫った経験のある彼だからこそ、この言葉を大切にするとだと思います。そして、「生きている」の「い」、「丸もうけ」の「まる」で、娘に「いまる」と命名しました。込めた願いは、「生きていることはそれだけですばらしい。自分の命も他者の命も大切にしてほしい。生きていることに感謝してほしい。」です。

彼の明るく、ちょっとおどけたひょうきんな姿の後ろには、命を大切にしたい、今を精一杯生きたいという強い思いがあるのです。

私自身も、自分や周りの人の命を大切にすること以上に大事なことはないと考えます。コロナ禍の今、自他の命を大切に思う「いまる」というこの言葉はより強く私たちにメッセージを送ってくれているようにも思います。

皆さんも、自分の命を大切に、家族の命、お友達や周りの人の命も大切に、感謝の気持ちを忘れず、精一杯生きてほしい。そして、こういう時代だからこそ、今まさに苦しんでいる隣人には、手をさしのべる勇気や包み込む優しさが必要なのだと思います。

コラム：自他の命を大切に思うこと

「被災された皆様のことを思うと心が破裂するような、破裂するように痛み、ただただ、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするばかりです。私も一生懸命病氣と闘ってきましたが、もしかすると負けてしまうかもしれません。でもその時は必ず天国で被災された方のお役に立ちたいと思います。それが私のつとめと思っています。（中略）幸せな、幸せな人生でした。心の底から感謝しています。」（NHK科学文化部ブログ）から引用）

これは、今から 10 年前、2011 年 4 月、東日本大震災の翌月発せられた田中好子さん（中・高校生は、知らないかも知れませんが、キャンディーズのメンバーの一人：通称スーちゃん）の最期のメッセージの一部です。逝去当時は、乳がんの闘病生活が 19 年続いていたとの報道もありました。それにしても、死に際して「必ず天国で被災された方々のお役に立ちたい」とは。闘病の苦しさの中で「幸せな人生でした」とも語るなんて。

コロナ禍の中、私はふと、スーちゃんの上のメッセージを思い浮かべることがあります。そして、改めて利他について考え、生かされている意味、役割、感謝を語るができる人生であるかを問い直すことが多くなってきました。